

富山県における年令別悪性新生物の死亡率の推移

—昭和45～59年—

富山県厚生連健康管理課 大浦 栄次

はじめに

三大成人病といわれる悪性新生物(癌)、脳血管疾患(脳卒中)、心疾患(心臓病)の一般的動向は、全国、富山県とも悪性新生物、心疾患が増加、脳血管疾患が減少となっている。

ところで、三大成人病のうち、悪性新生物の死亡率を年令階層別に検討すると、どのような傾向になっているのであろうか。全国のものについては、様々な報告があるが、富山県のものについては十分な資料はない。

今回、富山県が発行する「衛生統計年報」に基づき年令別の悪性新生物(全癌、胃、肺、肝、膵、子宮、乳房)の死亡動向を明らかにしたので、以下に報告する。

方 法

対象期間を昭和45年～59年の15年間とした。

富山県の各年度の年令別癌死亡者数は多くないので、この区間を第Ⅰ期(昭和45～49年)、第Ⅱ期(昭和50～54年)、第Ⅲ期(昭和55～59年)の5年ごとに区分し、各期間の年令別癌死亡者数を合計し、この数値をこの期間の各年令層の人口の合計で割り、10万人当りの死亡率を算出した。なお、各期間の全国の比較資料は、各期間の中間年である昭和47年、52年、57年のものを用いた。(表1)

各数値データは、成人病が問題となる20才以上を中心に示した。

なお、各年令層の表現は、「40才代」とは40～44才の5才毎の年令層を、「40代」は40～49才を示すこととする。

表1 全国と富山県の死亡率比較期間及び年度

区 分	富 山 県	全 国
第Ⅰ期	昭和45～49年の平均死亡率	昭和47年の死亡率
第Ⅱ期	昭和50～54年の "	昭和52年の "
第Ⅲ期	昭和55～59年の "	昭和57年の "

結 果

(1) 全癌の年令別、死亡率の推移

第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期の年令別全癌死亡率を表2に、第Ⅰ期に対する第Ⅱ、Ⅲ期の死亡率の増減比率を表3、4、図1、2に示した。

富山県の男の全癌死亡率は(人口10万人当たり)第Ⅰ期167.6、第Ⅱ期186.8、第Ⅲ期209.9、女は第Ⅰ期121.4、第Ⅱ期130.9、第Ⅲ期142.9であった。(表2)

全年令の第Ⅰ期に対する第Ⅱ期の死亡率の増加率は、男の全国で1.08、富山県1.11、女の全国が1.05、富山県が1.08であった。

同じく、第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の増加率は男の全国1.24、富山県1.25、女の全国1.14、富山県1.18である。(表3)

以上、富山県のこの15年間における全癌の死亡率は、男の増加率が女より高く、かつ第Ⅰ期から第Ⅱ期までの増加率より、第Ⅱ期から第Ⅲ期までの増加率が高い。

次に、富山県における第Ⅰ期に対する第Ⅱ期、第Ⅲ期の年令別死亡率の増減について30才代以上を中心に述べる。(表4)

第Ⅰ期に対する第Ⅱ期の死亡率の増減は、明瞭な傾向はみられないが、第Ⅰ期に対する

表2 第Ⅰ～Ⅲ期（昭45～59）の年令別悪性新生物死亡率（富山県）

比率 年令	男			女		
	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期
0	11.3	8.9	7.8	9.6	2.8	5.3
5	7.8	5.3	6.6	3.3	1.4	7.0
10	4.2	2.1	4.4	6.0	5.5	4.7
15	7.1	8.9	4.3	5.3	2.2	5.0
20	10.8	11.0	6.9	8.6	6.4	7.3
25	19.5	19.0	9.2	17.9	17.2	12.0
30	25.8	24.1	17.2	23.5	24.7	21.2
35	38.2	40.1	28.4	51.8	40.4	39.2
40	65.0	66.1	52.6	73.2	57.0	53.6
45	114.3	117.8	113.6	114.2	95.7	88.1
50	209.6	188.0	197.1	146.3	159.8	142.6
55	397.1	371.1	358.3	252.8	229.0	204.1
60	617.6	585.2	559.1	336.8	300.5	285.4
65	899.9	901.2	846.7	467.7	488.4	414.8
70	1259.6	1276.2	1254.9	698.8	661.9	609.4
75	1465.9	1705.7	1869.9	857.0	847.5	837.8
80	1425.3	1717.0	2051.5	753.0	869.9	1052.3
合計	167.6	186.8	209.9	121.4	130.9	142.9

第Ⅲ期の死亡率の増減では、男では75才代以上、女では80才代以上の増加が著しい。特に、80才以上の年代では第Ⅰ期に対して第Ⅲ期の死亡率の増加率は、男1.44、女1.40であり約4割の増加となっている。

一方、男では70才代まで、女は75才までは、いずれも第Ⅰ期に対して第Ⅲ期の死亡率が減少しており、低年令になるに従い死亡率の減少割合が大きい傾向にあるが、男の45才代、

女の50才代の死亡率はほとんど減少していない。

表3 悪性新生物の死亡率の増減率

（第Ⅰ期を1.00した第Ⅲ期の比率）

性別	男		女	
	全国	富山県	全国	富山県
Ⅱ期／Ⅰ期	1.08	1.11	1.05	1.08
Ⅲ期／Ⅰ期	1.24	1.25	1.14	1.18

図1 第Ⅰ期に対する癌の年令別、死亡率の増減比(男)

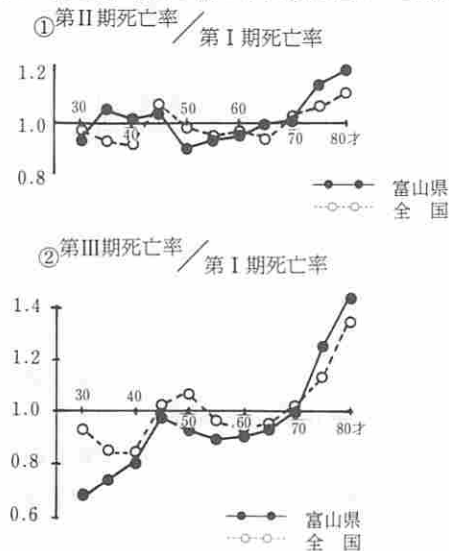


図2 第Ⅰ期に対する癌の年令別、死亡率の増減比(女)

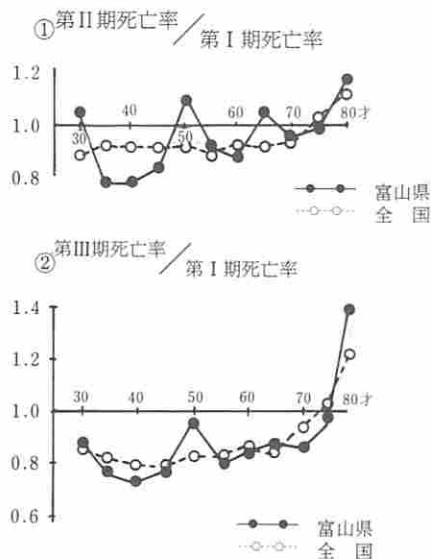


表4 第I期に対するII・III期の悪性新生物の死亡率の増減率

比率 年令	第II期/第I期				第III期/第I期			
	男		女		男		女	
	全国	富山県	全国	富山県	全国	富山県	全国	富山県
0	0.86	0.79	0.80	0.29	0.69	0.69	0.63	0.55
5	0.85	0.69	0.82	0.43	0.69	0.85	0.72	2.13
10	0.98	0.49	1.00	0.91	0.80	1.05	0.88	0.78
15	1.00	1.25	0.85	0.42	0.89	0.61	0.83	0.94
20	0.95	1.03	0.81	0.74	0.83	0.64	0.66	0.85
25	0.90	0.98	0.84	0.96	0.75	0.47	0.70	0.67
30	0.97	0.93	0.88	1.05	0.93	0.67	0.86	0.90
35	0.93	1.05	0.92	0.78	0.85	0.74	0.83	0.76
40	0.92	1.02	0.91	0.78	0.84	0.81	0.81	0.73
45	1.07	1.03	0.91	0.84	1.01	0.99	0.80	0.77
50	0.99	0.90	0.92	1.09	1.07	0.94	0.84	0.97
55	0.93	0.93	0.89	0.91	0.96	0.90	0.83	0.81
60	0.97	0.95	0.93	0.89	0.94	0.91	0.86	0.85
65	0.94	1.00	0.92	1.04	0.95	0.94	0.85	0.89
70	1.02	1.01	0.93	0.95	1.02	1.00	0.93	0.87
75	1.06	1.16	1.02	0.99	1.13	1.28	1.01	0.98
80	1.13	1.20	1.11	1.16	1.35	1.44	1.24	1.40
合計	1.08	1.11	1.05	1.08	1.24	1.25	1.14	1.18

表5 全国に対する富山県の年令別、悪性新生物の死亡率の比率（第I～III期：昭45～59）

比率 年令	男			女		
	第I期	第II期	第III期	第I期	第II期	第III期
0	1.41	1.29	1.41	1.37	0.51	1.20
5	1.16	0.94	1.44	0.66	0.35	1.94
10	0.86	0.43	1.13	1.50	1.36	1.34
15	1.15	1.44	0.79	1.00	0.49	1.14
20	1.30	1.40	1.00	1.16	1.06	1.48
25	1.50	1.63	0.95	1.24	1.42	1.19
30	1.35	1.30	0.97	0.93	1.11	0.98
35	1.13	1.28	0.99	1.27	1.07	1.16
40	1.00	1.10	0.97	1.09	0.93	0.98
45	1.02	0.98	1.00	1.06	0.98	1.03
50	1.06	0.96	0.93	0.90	1.07	1.05
55	1.11	1.11	1.04	1.07	1.09	1.04
60	1.07	1.05	1.04	1.01	0.97	1.00
65	1.01	1.08	0.99	0.98	1.11	1.03
70	1.05	1.04	1.03	1.09	1.11	1.03
75	1.00	1.10	1.13	1.08	1.05	1.05
80	1.02	1.09	1.09	0.96	1.00	1.08
合計	1.22	1.26	1.23	1.17	1.20	1.21

(2) 第III期における年令別、全癌死亡率の
全国に対する富山県の死亡率の比率

第I期から第III期までの年令別、全癌死亡率の全国に対する富山県の死亡率の比率を表5に示した。また、図3に第III期の全癌死亡

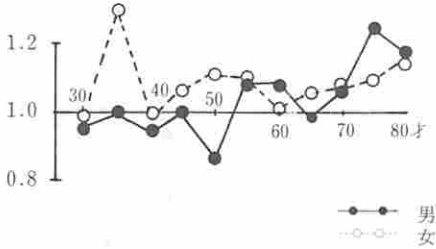
率の富山県/全国の比率を示した。

各期とも富山県の死亡率が高く、男の第I期では1.22、第II期1.26、第III期1.23と2～3割程度死亡率が高く、また、女も第I期が1.17、第II期1.20、第III期1.21と2割前後死

亡率が高かった。

第Ⅲ期の30才以上の年令別，全癌死亡率の

図3 全国に対する富山県の悪性新生物の死亡率の比率（第Ⅲ期）



富山県／全国の比率は，男で50才代までは全国より富山県の死亡率が低いが，55才以上では全国より高い傾向にある。

女では，30才以上の全年令で全国より富山県の死亡率が高い傾向にある。

(3) 富山県の第Ⅰ期(昭和45～49年)，第Ⅱ期(昭和50～54年)，第Ⅲ期(昭和55～59年)における性別，部位別癌の死亡率
第Ⅰ期(昭和45～49年)，第Ⅱ期(昭和50～54年)，第Ⅲ期(昭和55～59年)の富山県における年令別，部位別癌の死亡率を表6，7に示

表6 年令別，部位別，癌死亡率（富山県：男）

区分 年令	第Ⅰ期(昭和45～49年)				第Ⅱ期(昭和50～54年)				第Ⅲ期(昭和55～59年)						
	胃	肺	肝	脾	胃	肺	肝	脾	胃	肺	肝	脾	食道	大腸	白血病
20	4.4	0.0	1.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0			1.5
25	4.9	0.0	1.0	0.0	7.1	0.0	1.3	0.4	2.5	0.0	0.0	0.0			2.5
30	8.2	2.1	0.0	0.5	7.4	0.9	1.4	0.9	5.9	0.8	0.8	0.8	0.0	0.4	2.5
35	15.7	1.0	2.6	0.0	13.4	2.6	2.1	2.1	8.3	1.4	1.8	1.4	0.0	1.4	2.8
40	30.7	6.2	4.7	4.2	28.6	3.2	4.2	2.6	24.8	3.6	2.6	3.1	0.0	2.1	5.7
45	58.7	9.1	8.5	5.4	55.5	11.1	10.6	5.3	52.5	10.2	11.8	4.8	4.3	5.4	4.3
50	108.6	22.0	18.2	10.6	95.3	18.7	15.6	9.3	91.2	22.1	29.7	11.3	3.2	10.8	4.9
55	187.5	49.1	30.3	30.3	154.2	56.4	31.0	18.3	140.7	45.2	49.1	19.4	11.6	13.6	8.4
60	297.4	74.6	56.4	31.8	249.1	96.7	45.3	29.6	208.5	93.3	53.0	32.8	23.6	16.0	8.4
65	412.5	148.6	73.7	45.2	374.1	155.2	70.9	53.4	303.4	161.8	83.8	38.5	31.8	29.9	14.4
70	632.3	156.0	76.3	50.9	545.7	227.4	117.4	48.4	442.8	263.0	116.2	62.4	50.1	42.8	20.8
75	708.1	195.2	79.4	46.3	736.2	267.3	133.6	70.5	683.4	412.0	103.0	79.2	73.3	63.4	15.8
80	720.8	87.4	109.2	32.8	680.0	272.0	161.5	42.5	710.3	377.3	135.6	59.0	64.8	61.9	38.3
合計	79.1	19.8	12.2	7.7	78.6	27.8	15.2	8.3	77.7	36.4	19.1	9.8	7.2	7.4	5.2

表7 年令別，部位別，癌死亡率（富山県：女）

区分 年令	第Ⅰ期(昭和45～49年)						第Ⅱ期(昭和50～54年)						第Ⅲ期(昭和55～59年)								
	胃	肺	肝	脾	子宮	乳房	胃	肺	肝	脾	子宮	乳房	胃	肺	肝	脾	子宮	乳房	食道	大腸	白血病
20	2.4	0.4	0.4	0.0	0.4	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7			2.6
25	6.0	0.0	1.8	0.0	2.3	0.5	7.6	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	5.7	0.0	0.6	0.6	0.0	1.1			1.1
30	11.0	0.0	0.5	0.0	2.0	2.0	11.4	0.5	0.9	0.5	2.3	1.4	10.4	0.4	0.4	0.0	1.7	2.1	0.4		1.2
35	22.7	1.0	2.5	1.0	6.9	3.0	21.0	0.5	0.0	0.5	1.0	4.5	15.9	0.5	1.8	0.5	2.7	5.0		2.3	2.7
40	26.2	1.5	1.5	1.5	12.9	7.4	22.3	1.0	2.5	0.5	5.9	4.0	22.0	4.5	0.5	1.0	4.0	4.5	10.5	1.5	1.5
45	45.9	5.5	3.3	2.2	15.9	8.7	34.9	5.0	4.0	4.5	12.0	9.5	30.0	3.0	1.5	3.0	5.0	10.5	10.5	3.0	4.5
50	46.4	6.4	9.5	5.7	21.6	8.3	56.6	7.2	5.5	5.5	17.8	11.7	37.3	7.1	5.5	3.0	8.1	17.1	1.0	4.0	6.6
55	97.2	13.9	16.0	11.8	26.4	14.6	78.7	8.5	11.2	7.9	25.6	23.6	55.0	15.9	11.9	11.3	17.0	20.4	2.8	6.8	5.7
60	137.2	19.1	21.3	21.3	41.2	11.4	108.0	16.5	16.5	12.2	33.6	13.6	86.8	27.1	17.6	14.9	21.7	12.2	3.4	8.1	4.7
65	213.6	26.7	35.6	24.7	45.5	5.9	179.5	31.5	32.3	30.7	46.1	21.0	143.0	45.2	20.3	24.8	29.4	18.1	1.5	18.8	5.3
70	292.7	44.5	59.4	31.0	54.0	10.8	267.6	46.3	35.2	29.7	54.0	11.0	215.0	56.9	35.5	44.4	34.6	14.2	6.2	16.9	8.0
75	385.4	31.7	63.5	29.5	72.6	13.6	332.6	43.9	76.0	32.1	70.9	21.9	281.5	85.5	60.5	52.6	48.7	11.8	19.7	35.5	11.8
80	351.4	23.8	76.6	18.5	47.6	10.6	344.5	37.1	56.7	37.1	48.0	8.7	369.1	120.9	75.4	55.0	48.7	17.3	26.7	51.8	6.3
合計	49.7	5.7	8.2	4.8	12.5	4.3	49.6	6.7	7.4	5.4	11.8	6.0	47.2	12.7	8.0	7.5	8.8	6.9	1.9	5.3	3.6

図4 年令別癌死亡率(昭和55～59年)
(富山県:男)

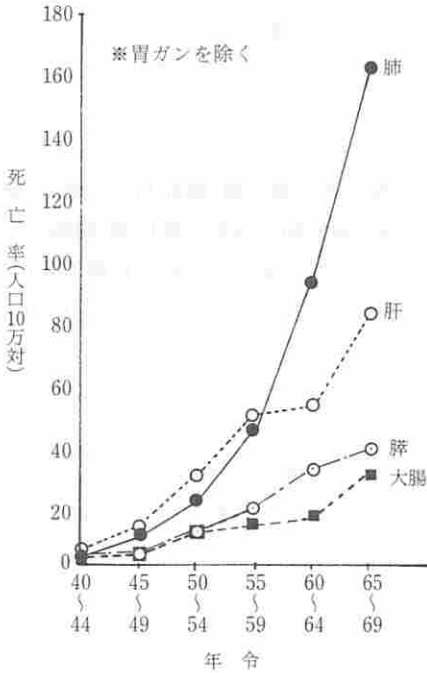
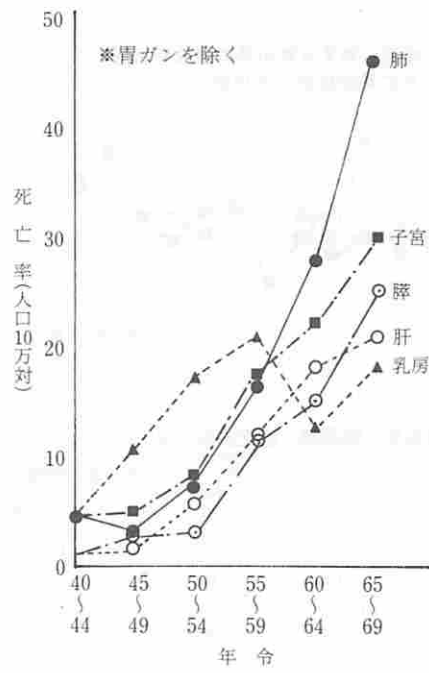


図5 年令別癌死亡率(昭和55～59年)
(富山県:女)



した。

なお、富山県の胃癌、肺癌、肝癌、膵癌、子宮癌、乳癌以外の食道癌、大腸癌、白血病の各癌については第Ⅰ期、Ⅱ期の資料が入手できなかったため、第Ⅲ期のみを示した。

富山県の第Ⅲ期の男女別、癌死亡率の順位は以下の通りである。

男では、胃癌(死亡率77.7)、肺癌(36.4)、肝癌(19.1)、膵癌(9.8)、大腸癌(7.4)、食道癌(7.2)、白血病(5.2)の順であり、女では、胃癌(47.2)、肺癌(12.7)、子宮癌(8.8)、肝癌(8.0)、膵癌(7.5)、乳癌(6.9)、大腸癌(5.3)、白血病(3.6)、食道癌(3.0)の順であった。

この第Ⅲ期における部位別、年令別癌の死亡率のうち、胃癌を除く主な癌の年令別死亡率を示したのが図4、5である。

男では、40代において肺癌より肝癌の死亡率が高い。また、女では45～59才代において乳癌、子宮癌が胃癌に次いで多い。

(4) 第Ⅰ期(昭和45～49年)に対する第Ⅲ期(昭和55～59年)の年令別、部位別癌の死亡率の増減

富山県の部位別癌の年令別、死亡率の第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の死亡率の増減及び、全国の増減を示したのが表8～12、図6～11である。

第Ⅰ期より第Ⅲ期においてその死亡率が減

表8 部位別癌の死亡率の増減(全年令層)
(第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の増減比率)

部位	男		女	
	全国	富山県	全国	富山県
胃	0.88	0.98	0.87	0.95
肺	1.78	1.84	1.73	2.23
肝	1.70	1.57	1.19	0.98
膵	1.58	1.27	1.63	1.56
子宮	—	—	0.74	0.70
乳房	—	—	1.41	1.60
食道	1.10	—	0.91	—
大腸	1.37	—	1.20	—
白血病	1.20	—	1.09	—

表9 胃癌の死亡率の増減(第III期/第I期)

区分 年令	男		女	
	全国	富山県	全国	富山県
20	0.44	0.00	0.44	0.54
25	0.65	0.51	0.69	0.95
30	0.72	0.72	0.78	0.95
35	0.68	0.53	0.77	0.70
40	0.69	0.81	0.74	0.84
45	0.73	0.89	0.65	0.65
50	0.71	0.84	0.66	0.80
55	0.67	0.75	0.59	0.57
60	0.66	0.70	0.64	0.63
65	0.68	0.74	0.61	0.67
70	0.69	0.70	0.65	0.73
75	0.77	0.97	0.73	0.73
80	0.99	0.99	0.93	1.05
合計	0.88	0.98	0.87	0.95

表11 肝癌の死亡率の増減(第III期/第I期)

区分 年令	男		女	
	全国	富山県	全国	富山県
20	0.67	0.80	1.00	0.00
25	0.71	0.00	1.00	0.33
30	1.27		1.25	0.80
35	1.19	0.69	0.69	0.72
40	1.02	0.55	0.74	0.33
45	1.73	1.39	0.71	0.45
50	1.92	1.63	0.77	0.58
55	1.69	1.62	0.93	0.74
60	1.41	0.94	0.92	0.83
65	1.32	1.14	0.84	0.57
70	1.23	1.52	0.96	0.60
75	1.16	1.30	0.94	0.95
80	1.25	1.24	1.14	0.98
合計	1.70	1.57	1.19	0.98

表10 肺癌の死亡率の増減(第III期/第I期)

区分 年令	男		女	
	全国	富山県	全国	富山県
20	1.00		1.00	0.00
25	0.50		0.50	
30	1.63	0.38	1.00	
35	1.00	1.40	1.20	0.50
40	1.11	0.58	1.38	3.00
45	1.24	1.12	1.15	0.55
50	1.28	1.00	1.00	1.11
55	1.24	0.92	1.01	1.14
60	1.22	1.25	1.16	1.42
65	1.23	1.09	1.23	1.69
70	1.53	1.69	1.45	1.28
75	1.80	2.11	1.59	2.70
80	2.38	4.32	2.28	5.08
合計	1.78	1.84	1.73	2.23

表12 膵癌の死亡率の増減(第III期/第I期)

区分 年令	男		女	
	全国	富山県	全国	富山県
20			0.00	
25	1.00		0.50	
30	1.50	1.60	0.75	
35	1.40		0.56	0.50
40	0.79	0.74	0.81	0.67
45	0.94	0.89	0.85	1.36
50	0.92	1.07	0.96	0.53
55	0.99	0.64	1.01	0.96
60	1.25	1.03	1.04	0.70
65	1.32	0.85	1.20	1.00
70	1.39	1.23	1.47	1.43
75	1.93	1.71	1.77	1.78
80	1.95	1.80	2.28	2.97
合計	1.58	1.27	1.63	1.56

少しているのは、全国、富山県の胃癌、子宮癌及び、富山県の女の肝癌であり、他の癌は、いずれも増加している。

胃癌は、富山県、全国とも減少しているが、全国の男0.88、女0.87と1割以上減少しているのに対して、富山県の男0.98、女0.95とその減少率は小さい。

子宮癌は、全国0.74、富山県0.70でいずれも約3割減少している。

—現在最も増加している癌は肺癌であり、全

国の男1.78、女1.73に対して富山県の男1.84、女2.23といずれも富山県の増加率が高い。

肝癌は、全国の男1.70、女1.19に対して、富山県の男1.57、女0.98であり全国増加率より低く、特に女では全体として若干減少傾向にある。

膵癌も全国に比べて富山県の増加率は男女とも低く、全国の男1.58、女1.63に対して、富山県の男1.27、女1.56である。

乳癌は、全国1.41に対して富山県は1.60で

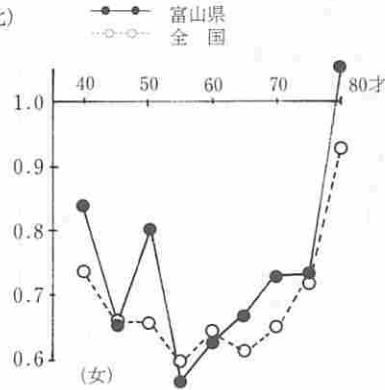
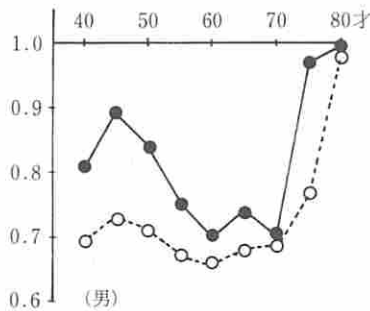
表13 子宮癌、乳癌の死亡率の増減
(第Ⅲ期/第Ⅰ期)

区分 年齢	子宮		乳房	
	全国	富山県	全国	富山県
20	0.33	0.00	1.00	1.75
25	0.50	0.00	1.00	2.20
30	0.67	0.85	1.23	1.05
35	0.36	0.39	1.27	1.67
40	0.40	0.31	1.08	0.61
45	0.44	0.31	1.02	1.21
50	0.54	0.38	1.12	2.06
55	0.57	0.64	1.37	1.40
60	0.54	0.53	1.39	1.07
65	0.59	0.65	1.37	3.07
70	0.61	0.64	1.25	1.31
75	0.48	0.67	1.12	0.87
80	1.01	1.02	0.88	1.63
合計	0.74	0.70	1.41	1.60

表14 食道癌、大腸癌、白血病の死亡率の増減
(全国：第Ⅲ期/第Ⅰ期)

区分 年齢	食道		大腸		白血病	
	男	女	男	女	男	女
20			2.00	1.00	0.92	0.83
25			0.20	0.33	0.77	0.74
30	0.00		0.70	0.50	0.83	0.89
35	1.00	0.00	0.54	0.94	1.03	0.85
40	1.07	0.40	0.67	0.92	0.88	0.90
45	1.24	0.86	1.30	1.09	1.17	0.86
50	1.24	0.65	1.54	0.98	1.38	0.95
55	0.97	0.55	1.08	0.88	1.10	1.22
60	0.79	0.74	1.12	0.96	1.63	1.02
65	0.81	0.62	1.02	0.86	1.63	1.21
70	0.80	0.65	1.11	0.88	1.61	1.84
75	0.99	0.68	1.12	0.90	1.93	1.85
80	1.00	0.87	1.44	1.23	3.82	3.96
合計	1.11	0.91	1.37	1.20	1.20	1.09

図6 年令別、胃癌死亡率の増減(第Ⅲ期/第Ⅰ期比)



あり、全国より富山県の増加率が高い。

なお、富山県の資料はないが参考として、全国の食道癌は男1.11、女0.91で男は増加、女減少となっており、大腸癌は男1.37、女1.20、白血病は男1.20、女1.09でいずれも増加の傾向にある。

以上述べた部位別癌の第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の死亡率の増減を、年令別に検討すると、各癌とも第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の年令別増減のパターンは、全国と富山県ではほぼ同様の増減を示している。以下に各部位別癌の年令別増減を富山県を中心に述べる。

胃癌では、男女とも80才以上ではほとんど

減少していないが、他の年代では1～3割減少している。また、40代は他の年令層に低くして減少率は少ない。(図6)

肺癌は、男で40才代で減少、45才～69才代までは2割程度の増加または、増減なしであるが、70才以上で5割以上増加し、80才以上で全国2.38倍、富山県4.32倍となっている。女では、男と同様高令者の増加率が高いが、同時に全国、富山県とも40才代の増加率が高く、富山県では第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の比率は、3.00倍となっている。(図7)

次に肝臓について述べる。

年令別の死亡率の増減パターンは胃癌、肺

図7 年令別、肺癌死亡率の増減(第III期/第I期比)

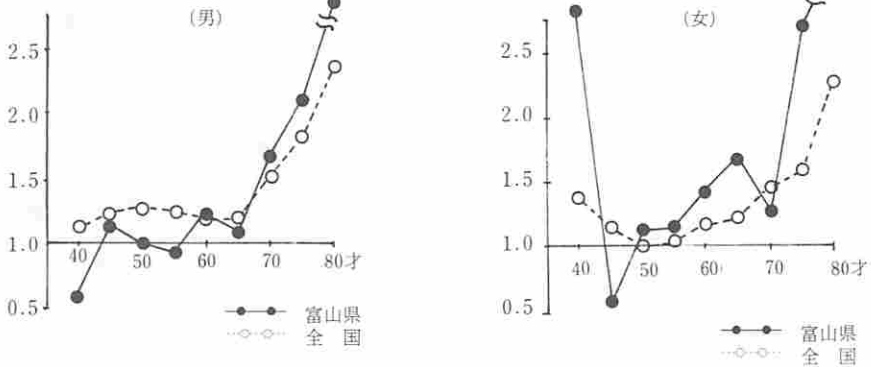


図8 年令別、肝癌死亡率の増減(第III期/第I期比)

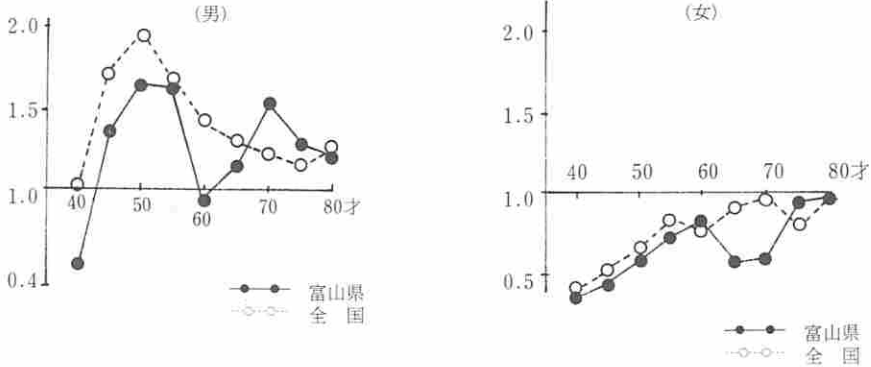
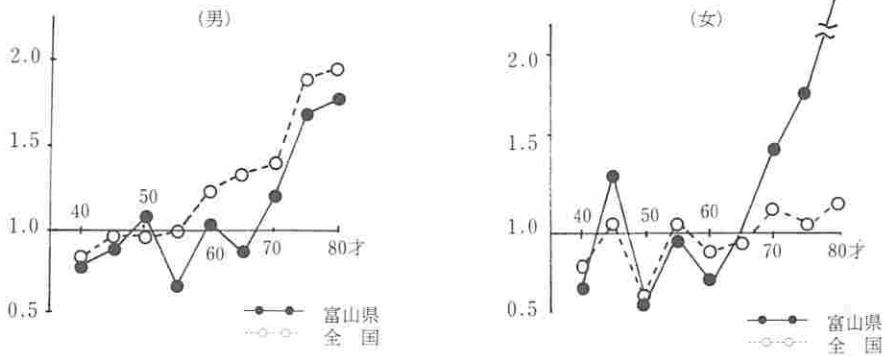


図9 年令別、膵癌死亡率の増減(第III期/第I期比)



癌、膵癌では、男女の増減傾向が類似している。ところが、肝癌は男および女のそれぞれの全国と富山県の年令別の増減は類似しているが、男女の増減は全く異なっている。つまり、女の40才以上の年令では第III期の死亡率がすべて減少しており、若年層ほどその減少率が大きい。これに対して男では富山県の40、

60才代を除き全国、富山県とも第I期に対して第III期の死亡率が増加している。特に、45~55才代の増加が著しい。(図8)

膵癌の年令別増減は、全国の女を除くと肺癌と同様な傾向にある。つまり、70才未満では増減なし、わずかな増加、70才以上で著しく増加している。全国的女は40才以上の年

図10 年令別、子宮癌死亡率の増減
(第Ⅲ期/第Ⅰ期比)

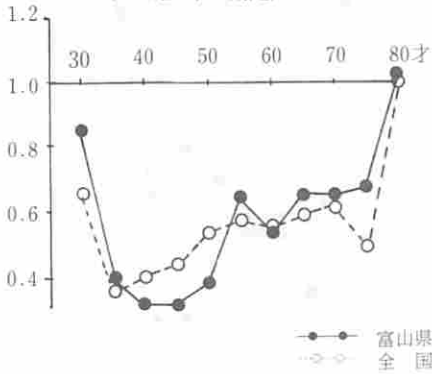


図11 年令別、乳癌死亡率の増減
(第Ⅲ期/第Ⅰ期比)

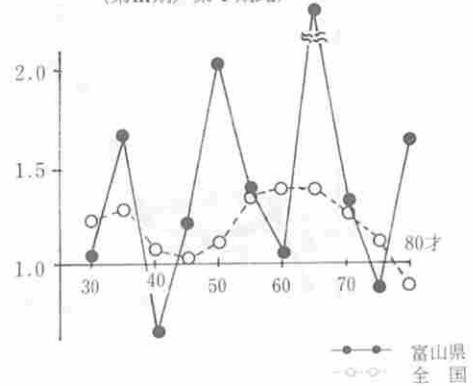


図12 年令別、食道癌死亡率の増減
(全国：第Ⅲ期/第Ⅰ期比)

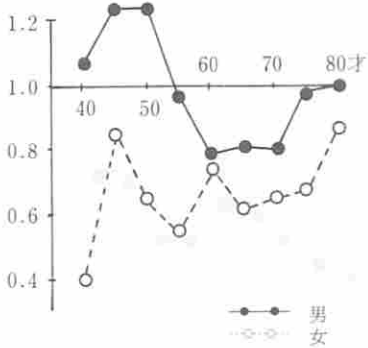


図13 年令別、大腸癌死亡率の増減
(全国：第Ⅲ期/第Ⅰ期比)

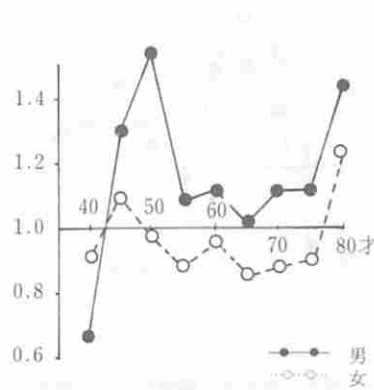
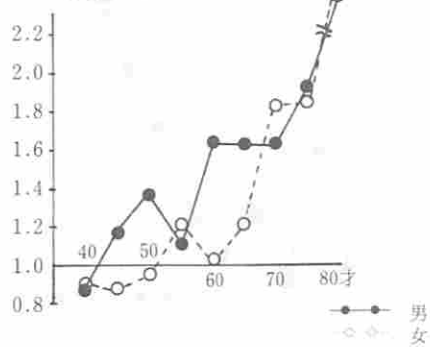


図14 年令別、白血病死亡率の増減
(全国：第Ⅲ期/第Ⅰ期比)



令でほとんど増減なしである。(図9)

子宮癌は、胃癌と同様なパターンを示し、30才代および、80才以上の減少率は少ないが、他の年齢では4～6割減少している。(図10)

乳癌は、富山県の年令別増減が大きく、一定の傾向を把握することはできないが、40才代、70才代を除き増加傾向にある。(図11)

以上、部位別癌の年令別死亡率の増減について富山県を中心に述べたが、以下、参考として全国の食道癌、大腸癌、白血病の増減について述べる。(図12～14)

食道癌は、40才以上の女ではすべて減少傾向にある。男は、40～59才代で増加傾向にある。

大腸癌の男では、40才代では減少しているがそれ以上の年代ではすべて増加しており、特に45～55才代の増加が著しい。女では、45才代、80才代で増加しているものの、他の年代では、減少している。

白血病は、男女とも40代では減少または、増減なしであるが、年令とともに増加率が高

表15 第Ⅲ期における部位別癌の全国に対する富山県の死亡率の比率(全年令合計)

部位	性別	
	男	女
胃	1.50	1.49
肺	1.21	1.14
肝	0.95	0.99
膵	1.13	1.21
子宮		1.02
乳房		0.96
食道	0.90	0.95
大腸	1.04	1.00
白血病	1.08	1.03

くなり、男の60才以上、女の70才以上の増加率が著しい。

(4) 第Ⅲ期(昭和55~59年)における年令別、部位別癌の全国に対する富山県の死亡率の比率

第Ⅲ期における年令別、部位別癌の全国に対する富山県の死亡率の比率を表15、16、図15~22に示した。

第Ⅲ期の死亡率が全年令合計において、全国より低いのは、食道癌(男0.90、女0.96)

肝癌(男0.95、女0.99)である。

全国より同率、または10%程度多いのは、大腸癌(男1.04、女1.00)、子宮癌1.02、白血病(男1.08、女1.03)である。

全国より10%以上その死亡率が高いのは、胃癌(男1.50、女1.49)、肺癌(男1.21、女1.14)、膵癌(男1.13、女1.21)であった。

上記の第Ⅲ期の全国と富山県の比率を40才以上の年令別に比較すると、以下の通りである。

胃癌では、全年齢層で男女とも全国より死亡率が高い。特に男では45~54才代、女では

図15 全国に対する富山県の胃癌死亡率の比率(第Ⅲ期)

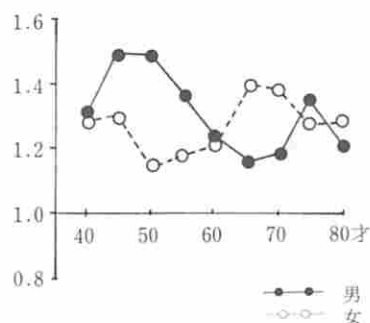


表16 部位別癌の全国に対する富山県の死亡率の比率(第Ⅲ期:昭和55~59年、富山県/全国)

年令	胃		肺		肝		膵		子宮	乳房	食道		大腸		白血病	
	男	女	男	女	男	女	男	女			男	女	男	女		
20	0.00	1.86	0.00	0.00	4.00	0.00			0.00	7.00					0.65	1.73
25	1.14	1.73	0.00	0.00	0.00	3.00	0.00	6.00	0.00	1.57					1.25	0.65
30	1.11	1.37	0.62	0.50	0.57	0.80	1.33	0.00	1.21	0.78			0.57	0.57	1.04	0.50
35	0.89	1.28	0.67	0.28	0.58	2.00	1.00	1.00	1.50	0.96	0.00		1.08	1.53	0.85	1.17
40	1.31	1.29	0.73	1.25	0.39	0.29	1.35	0.77	0.98	0.53	0.00	2.50	0.88	0.63	1.50	0.54
45	1.50	1.30	0.90	0.56	0.53	0.44	0.96	1.07	0.68	0.89	0.91	0.83	0.95	0.81	0.90	1.45
50	1.49	1.14	0.86	0.77	0.66	0.74	1.15	0.55	0.57	1.02	0.33	0.59	1.08	0.69	0.74	1.74
55	1.36	1.18	0.88	1.00	0.83	0.94	1.00	1.06	0.92	1.00	0.60	1.33	0.99	0.91	1.08	1.02
60	1.24	1.21	0.98	1.00	0.74	0.82	1.01	0.88	0.94	0.63	0.85	0.71	0.74	0.69	0.76	0.80
65	1.16	1.40	0.93	1.05	0.90	0.62	0.79	0.93	0.98	0.98	0.72	0.21	0.98	1.11	0.93	0.70
70	1.19	1.39	0.98	0.80	0.99	0.78	0.96	1.14	0.90	0.81	0.87	0.53	0.92	0.63	1.18	0.75
75	1.35	1.27	1.16	0.97	0.80	0.97	0.96	1.05	1.57	0.72	0.87	1.15	0.91	0.96	0.68	0.87
80	1.20	1.28	1.10	1.26	0.99	0.99	0.75	1.19	0.83	0.81	0.78	1.03	0.63	0.95	2.01	0.61
合計	1.50	1.49	1.21	1.14	0.95	0.99	1.13	1.21	1.02	0.96	0.90	0.95	1.04	1.00	1.08	1.03

図16 全国に対する富山県の肺癌死亡率の比率(第Ⅲ期)

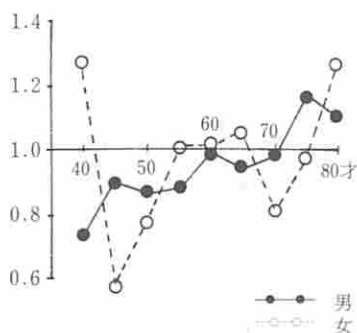


図17 全国に対する富山県の肝癌死亡率の比率(第Ⅲ期)

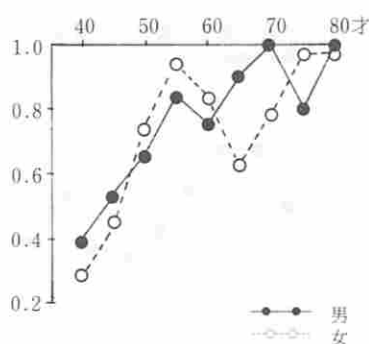
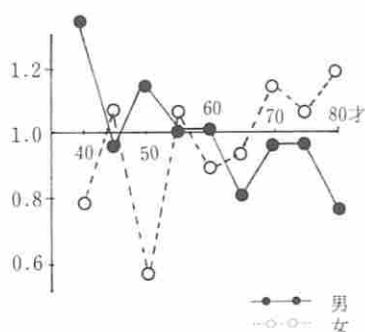


図18 全国に対する富山県の肺癌死亡率の比率(第Ⅲ期)



65～74才代において富山県の死亡率が全国と比較して高い。(図15)

肺癌の男では、70才未満においては今国の死亡率より富山県の方が低く、それ以上で高くなっている。女では、40才代および80才以上で全国より高いが、他の年齢層では同率ま

図19 全国に対する富山県の子宮癌、乳癌死亡率の比率(第Ⅲ期)

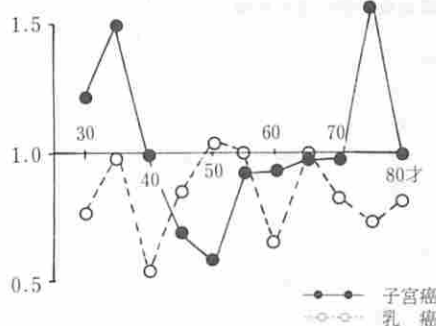
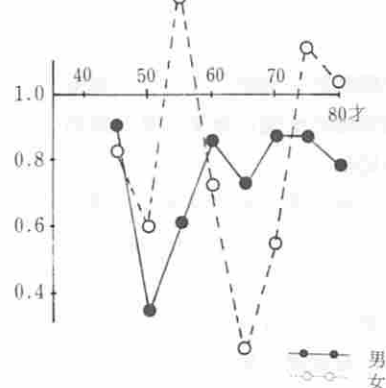


図20 全国に対する富山県の食道癌死亡率の比率(第Ⅲ期)



たは、富山県の死亡率が低い。(図16)

肝癌では、男女とも全年令層で全国より富山県の死亡率が低い。(図17)

肺癌は、男で40、50才代において全国より高いが他の年代では同率、または低い。女では、逆に40、50才代において全国より低い。他の年代では同率、または高い。(図18)

子宮癌では、30、35、75才代において全国より死亡率が高く、40才代、55～69才代においてほぼ同率、45～54才代においては5割程度低い。(図19)

乳癌では、30、40、60才代および70以上において全国より死亡率が低く、他の年代では略同率である。(図19)

食道癌では、女の55、65、75才代を除き男

図21 全国に対する富山県の大腸癌死亡率の比率(第III期)

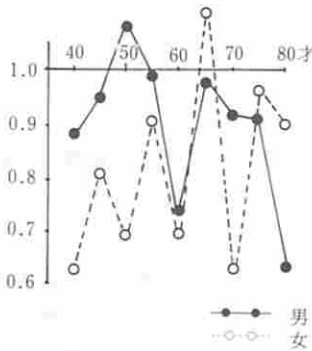
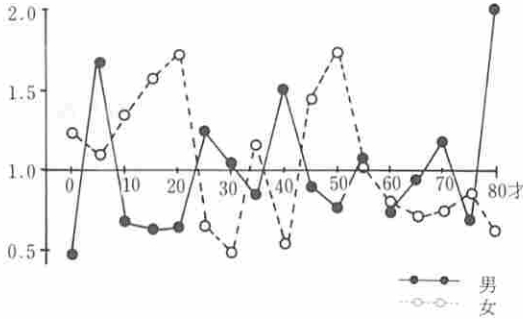


図22 全国に対する富山県の白血病死亡率の比率(第III期)



女とも他の年令層において全国の死亡率より低い。(図20)

大腸癌では、男の50才代、女の65才代を除き他の年令層すべてで全国より死亡率が低い。(図21)

白血病では、富山県の死亡率は全国に対し一定の傾向は認められない。(図22)

ま と め

昭和45～59年の15年間を第I期(昭和45～59年)、第II期(昭和50～54年)第III期(昭和55～59年)の三期に分け、各年令階層別の

富山県の全癌、部位別癌死亡者数を合計し、この数値をこの間の各年令階層の人口合計で割り、人口10万人当りの死亡率を算出した。この第I、II、IIIに対応する全国の資料は各期の間年である昭和47、52、57年の資料を用いた。

そ の 結 果

- (1) 全国、富山県とも全癌の死亡率は第I期(昭和45～49年)に対して第III期の全年令の死亡率は1～2割増加している。第I期から第II期(昭和50～54年)の増加率より、第II期から第III期の死亡率の増加率が高い。また、女より男の方が死亡率の増加率が高い。
- (2) 年令別では、男女とも高年令者および、男では45才代、女では50代において死亡率が増加もしくは、他の年代に比べて減少率が小さく、これらの年代の成人病対策の強化が必要であると考えられる。
- (3) 第III期における全癌の富山県と全国の死亡率の比較では、男女とも富山県の死亡率が高かった。また、年令別では30才以上において、女では全年令層、男では70才代以上で全国より死亡率が高い傾向にあった。
- (4) 第III期(昭和55～59年)の富山県の部位別癌において、男では45～59才代において肺癌の死亡率より肝癌の死亡率が高く、また、女では同じ45～59才代において、乳癌、子宮癌の死亡率が肺癌より高く、この年代における癌対策は胃癌、肺癌のみならず、これらの癌対策も強化する必目があると考えられた。
- (5) 富山県の第I期(昭和45～49年)に対して第III期(昭和55～59年)では、胃癌、子

宮癌および女の肝癌が減少、肺癌、男の肝癌、膀胱癌、乳癌が増加しており、特に肺癌の増加が著しい。

- (6) 年令別の第Ⅰ期に対する第Ⅲ期の増減は、各癌とも全年令の増減とは異なっている。あえて類型化すると、胃癌、子宮癌は働き盛りの年代の死亡率の減少が高く、肺癌、膀胱癌、白血病（ただし全国の資料のみ）は壮年層より高年齢者の死亡率の増加が著しく、肝癌の男、および全国の食道癌、大腸癌は壮年層と高令者の増加が著しい。
- (7) 部位別癌の第Ⅲ期の全国に対する富山県の死亡率の比率は、胃癌、肺癌、膀胱癌が男女とも富山県の死亡率が1割以上高く、子宮癌、大腸癌、白血病は同率または1割未満の増加、肝癌、乳癌、食道癌は全国の死亡率より低い。
- (8) 年令別では、40才以上において胃癌は全

年令層とも全国に比べ富山県の死亡率が高く、逆に肝癌は全年令で富山県の方が死亡率が低い。他の癌では年令により全国と富山県の死亡比は増減している。

おわりに

本報告に当り、富山県厚生部医務課より統計資料閲覧の便宜を図って戴いたことに対し厚く御礼申し上げます。

また、集計に当り富山医科薬科大学公衆衛生学教室教授加須屋実氏、厚生連滑川病院外科部長佐々木正氏より貴重な示唆を載いたことに対して深甚の謝意を表します。

参考文献

- 1) 厚生省大臣官房統計情報部：悪性新生物死亡統計、昭和61年
- 2) 富山県厚生部：富山県衛生統計年報、昭和45～59年版
- 3) 富山県厚生部：衛生統計の年次推移、昭和60年